

2004年を迎えて

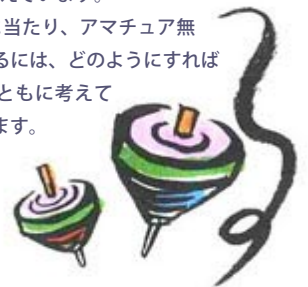
JA3AA 島伊三治

2004年の新春を迎えるにあたり、各局の更なるご活躍とご健康をお祈り申し上げます。このところ世の中は非常に住み難くなったように思います。何が起るか予想もできません、自衛隊のイラク派遣、アメリカの狂牛病と最近の出来事だけ見ても、これが今後の展開次第では我々の生活にとんでもない影響を与える可能性をひめている様に思います。さて、2004年のアマチュア無線の世界では、JARLの選挙があります。また、JARL総会が池田市で開催されます。関西で総会が開催されるのは1994年の神戸総会以来で10年振りになります。10年一昔と言いますが、この神戸総会で会費が値上げされたことからJARLの斜陽化が始まりました。10年目の総会の年に当たり、この10年を



振り返りJARLの現状を考えてみたいと思います。まず、会員数は19万4千人と20万人の大台が目前であったものが、今はやっと9万人で、実に半分以下になりました。10年間で10万人が退会、毎年1万人づつ止めたこととなります。(実際には、新規入会者5,000名、退会者15,000名差し引きマイナス1万名と言うことで、退会者の数はもっと多いのです。)当然のことながら会費収入は減少し財政は青息吐息なのですが、更に細かく見ますと9万人の内に、終身会員が約2万5千人と大凡4人に1人は終身会員となっています。この終身会員問題を解決しないと財政がパンクすることは間違いありませんが、まだ更に心配されるのが後継者問題であります。JARL会員の年齢別分布は1972年には、25才以下が56%と半数以上を占めていましたが、30年後の2002年には僅か1.6%しか居ません。現在では25

才以下の会員は1500名を割っていると思います。若者から完全にそっぽを向かれた状態です。また、年齢別分布のピークは55才前後に有ると思いますが、このままでは25年先のJARL創立100周年頃には会員数は数千名か、或いは消えて無くなっている可能性もありそうです。JARLの役員は、18名で、最年長は83才、70才代5名、60才代6名、50代5名、最年少は当クラブの後藤さんが唯一の40代で46才です。役員の内任期間は10年を超える人が7人、その内3人は20年を超えています。2004年の新春に当たり、アマチュア無線の活性化を図るには、どのようにすれば良いか皆さまとともに考えていきたいと思ひます。



出会いの不思議

JA3UB 三好二郎

隠遁生活に入ったときに備え長崎市の外れに家を建ててから既に十五年有余の歳月が経ちましたが、その計画は実現しそうにありません。勿論アンテナも建設し無線機も装備してありますので時々運用したり庭の手入れ等に長崎へ行きます。そんなある日のこと隣町にある美味しいトンカツ屋さんへ夕食をとりに出かけました。お店に入るやいなや順番待ちをしていた客の美しい女性がキャーともワウオともいえない素っ頓狂な声で私の名前を呼びながら近づいて来るではありませんか！春先に発作の出る病のお人が(大変失礼)と警戒心

を持ちながらも脳みその奥にある記憶素子をフル回転させながら、思わず「ユキコさん」と叫んでいました。過去のNLでも触れた、このアイハウラジオクラブの基礎でもある1970年の万国博覧会に於いて我が国最初の特別記念アマチュア局JA3XPOが設置されたサンフランシスコ館でアルバイトしていた女子大生との数十年ぶりの再会の一瞬でした。我に返った「由紀子さん」は御主人と二人のお嬢さんを紹介してくれました。長女的美紀さんは万博当時の由紀子さんの年齢とほぼ同じになっていましたが私達のタイムマシンは30年程前の世界へ連れ戻してくれました。当時自前のアマチュア無線館を持つことの出来なかった我々は私が企画運営に携わった、これもイベント会場に於ける我が国最初の「迷子センター」の運営用無線局に併設することも選択肢の一つにしていたのですが、当時サンフランシスコ市の部長職にあったアマチュア無線家(W6VCN)Rodyから大阪市に対してサンフランシスコ館にアマチュア局の設置運用の依頼があって実現し我々アマチュア無線家とサンフランシスコ館のスタッフが協力しあって半年間の



運用と国際交流活動が円滑に出来たのです。そのような事情から私達は親密な関係であったのです(親密の意味を誤解しないように願います)。万博終了後暫くは年賀状交換や時折便りがありましたがお互いの機会もなく、いつの間にか疎遠になって、お互い姿力タチも変わって何処かで出逢っても気が付かないだろうと思ひの外「昔と全然変わっていませんでした」と言われました。



1970年当時のJA3UBモーター



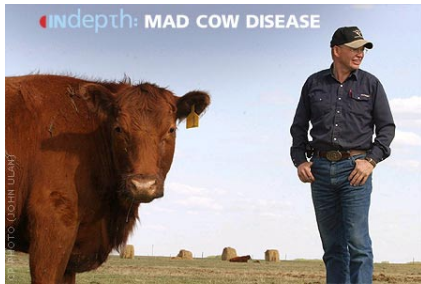
初回から今回まで、私の「出会いの不思議」のお話は万博で始まり、この万博話でひとまず終わらせていただきますが、このような万に一つの偶然や奇縁を体験された方々に是非その体験を発表してこのシリーズを継続していただきたいと思います。



EXPO70SF館のスタッフ右端が由紀子さん

ちょっと情報！ JA3CZY

今年でアマチュア無線を始めて43年目になり、ハムの話じゃないので少しが引けますが…。一昨年からの日本での狂牛病騒ぎの記憶が薄れかけていた処へ、今度は牛肉の本場アメリカから狂牛病発生の大ニュースが飛び込んできました。新聞からの受け売りですが、日本の牛肉は消費量の70%を輸入肉に頼りしかも、その半分はアメリカからの輸入肉だそうです。



今回狂牛病を発病した牛は4歳のホルスタイン種とあり、これは主に乳牛として酪農家に飼育されており、肉質がステーキには適さないため、殆どがハンバーグなどの加工食品用に流されて

いるとあります。さて、狂牛病の発生した場所がワシントン州とありますが、町の名前が書いてありません。米国西海岸で、知り合いのハムも多く馴染みの深い州だけに、場所は何処だろう？と、ちょっと気になり始めました。得意(?)のInternetで米国のWebを調べていたら、米国農務省発表記事の中に、Mobtonと云う街の牧場にいた牛だ、との記述を発見しました。Mobton? 聞いたこと無いな。何処ら辺りかなあ？

数ヶ月前にスポケーンを訪問して帰ってきたばかりで、ワシントン州通(?)を自認する小生としては些か気になります。そこでまたInternet上で地図を調べたら、ワシントン州の中南部、オレゴン州に近い処にありました。(添付地図をご覧ください)ワシントン州中部と云うと、北の方はリンゴやワインなどの果樹園産業が、Mobton 辺りの南部地方は起伏の少ない丘陵地帯が広がっているために、牛や馬の牧場と、小麦畑が広がる大農場地帯です。後で判った事ですが、Mobtonは酪農や農業が主産業で、人口1,800人の90%がメキシコなどから移民してきたヒスパニック系だそうです。スポケーンの連中に聞いてみたら「今のところ特に影響は出てないよ」と素っ気無い返事です。灯台下暗しなんかなあ、と心配になります。21mhzでCQを出していたらAC7X0/Lennが呼んで来て、QTHはSunny Sideでワシントン州中南部だと云

うではありませんか。早速Mobtonの件とBSE知ってるか？と聞いたら小生の発音が悪かったのか返事がありません。Mad Cowのことだよ、と尋ねたら「おう あそこの牧場はおれの家から数マイルしか離れていない。その話はよく知ってるよ」と色々と説明してくれました。「この辺りの小麦は麵類用として殆どが日本やアジア向けに輸出用として作っている。Mobtonの牛も90%は日本向け輸出用だ。」「そうか、それで日本の新聞が大見出しで書いてるんだ」と納得。やはり、ワシントン州は日本にとって大切な食料供給地域なんです。でも、Internetって本当に便利です。色々なこともすぐ判ります。ことしも、こんな大して意味の無い雑学しか書けませんが、懲りずにつきあってやって下さい。お願いします。73 & 88



参考英語: Bovine Spongiform Encephalopathy (BSE).
Also known as 'Mad Cow Disease'



世界のアンテナ

JA3CZY 三浦 聡之

謹賀新年、ことしもよろしくお祝い申し上げます。既にCQ誌などにも大きく取り上げられ、ご存知の方も多いと思いますが昨年9月に7J4AAL/Kanさんのハムとしては世界一超大型アンテナが上がりました。このアンテナ、ブーム長42m、エレメント長さ40m x 5本、地上高60m、重量1.8ton、回転させるローテタの大きさが1m角という、ちょっとこの数字を見せられても我々凡人には感覚が掴めないくらい巨大なもので、今後暫くはこのアンテナを超越するものは出てこないでしょう。遂にこんなアンテナの時代に、と我々貧乏人には夢のまた夢ですが、無線機が年々革新的な進歩を遂げるにに合わせて使用されるアンテナも進歩してきました。

当然趣味の世界の事ですから、出来るものは出来る・出来ないものは出来ない、となる訳ですが「ゴルフは上手くなればなるほど楽しい」と云われる如く、一步奥に踏み込んでしまうと、なおそれ以上をと望んで止まないのが「道楽」なのでしょう。これから紹介していく数々の局は、どれも素晴らしい夢のようなアンテナ設備を擁し、DXやCONTESTなどに大活躍している局ばかりです。そしてどの局も永い間の辛苦と努力を重ね、夢の実現にこぎ

つけたもので、決して今日や昨日の簡単な発想で立ち上げたものには無いことがお判り頂けると思います。まず第1回は、多くのLowband-DXerに馴染みの深い、K7ZV/Richの75/80m-3el 八木の概要をご紹介します。

QTHは西海岸 Oregon 州の Grantspass で、街から少し離れた郊外の小高い山の上に、彼の家とこのアンテナがあります。(WA3USA から車で40分)

アンテナの大きさはブーム長:20m、エレメント長さ:34m。この長さに短縮するため途中に特製のコイルが付いています。タワーもこの超大型アンテナに合わせて、



US-Tower 特製の6段40mの最大級のものがそびえています。どのアンテナにも言えることですが、いくら巧く設計できて、良く出来たアンテナでも実際に上げたあとの調整をしつかりやらないと宝の持ち腐れ(単なるアルミパイプの飾り物)で、肝心の性能を発揮してくれません。そこで彼はこのために地上高20mまで延びるバケット車を一台買い込み、上がったたり降りたりを繰り返して、約半年掛かって調整したそうです。そこで肝心の性能ですが、彼の家で数日運用をさせて貰った処では、JAは近い性か夕方から翌日の朝まで絶え間なく聞こえており、それにアンテナの方向なんて殆ど関係なしといった感じで、どこへ向けていても聞こえます。ところが、ヨーロッパとかアフリカなどの、距離が離れるほどにビームの切れがシャープになり、ロングパスでみた限りではFB比:25DB近くありそうです。

JAに対するアンテナの切れは、10数年前N7AVK/Lewの3エレ(フルサイズ)を運用したときも同様に感じました。小生の僅かな経験ですが、JAから見ると太平洋近辺、いわゆるAPEC参加諸国、との交信は非常に楽で安定して出来ますが、米国東海岸やアフリカなど少し距離が離れるとCONDXに左右されて極端に不安定で難しくなります。

さあ、今回はどこのアンテナファームが良いかな...



第31回SEANETコンベンションは、2003年11月27日から4日間、マレーシアのジョホールバール市(Johor Bahru)で開かれました。会場となったEden Garden Hotelはシンガポールとの国境に近いデュティーフリーゾーンにあり、ジョホール海峡を挟んでシンガポールが直ぐ目の先に見えるところ

です。今回はSARSの不安があったにもかかわらず16ヶ国から約130名が参加して大盛況でした。日本からはJA1BRK, JA1RJU, JK1KHT, JR1FBE, JA3UB, JA3AER, JE3BEQ, JH3GAH, JH3EXH, JH3EXJ, JI3KNS, JR3MVF, JA5BM, JA5AIL, JA5TFF, JE5DGG, JJ5CTD, JA8OW, JA9AG, JA9JYL, JA0AD 他家族を含めて約25名が参加した他、9V1YJ (JA8CSW) 佐々木さんがシンガポールから、9M2KE (JR4PMW) 河野さんと9M2/JI1ETU 舟久保さんがペナンから参加しました。今回は関西からの参加者が8名と多く、当大阪国際交流センターラジオクラブのメンバーは5名でした。

11月27日(木曜日)

筆者はJA3UB, JR3MVF 三好さんご夫妻、JE3BEQ 宮本さんと共に、関西空港から先ずシンガポールに入りました。後藤さんのご家族4人(JH3GAH,



JI3KNS, JH3EXH, JH3EXJ) も同じ飛行機でシンガポール入りされましたが、ホテルが違ったので空港で別れました。我々4人はここシンガポールで1泊の後、ホテルで落ち合ったHL2KDW Chae, HL2DBF Kang (いずれもYL) と共に、地元シンガ



ポールの9V1RH Davidを迎えて昼食を共にし、貸切りのリムジンでマレーシアに向かいました。陸路の国境越えも簡単な手続きで通過して、会場となるホテルに着いたときには既に多くの参加者がチェックインをしていました。

"Warming Up Dutch Party" はホテル内のレストランで、三々五々に集った参加者と夕食を共にするものですが、旧友との再会を喜び会う人達、初めての出会いにお互いを紹介しあう人達と賑やかな夕食会となりました。

ホテルの最上階1633号室には既に特別局9M0SEAが設置され、参加者による運用が始まっていましたが、リグは

ALINCO DX-70 でアンテナは屋上の3エレ八木での運用でした。後にCQ WW DX CW Contestに参加するための特別局9M4JBが同室に別途設置され、同時に運用がはじまりました。この9M4JB局を設置するためのリグを取りに行くくだりは、先月号にJE3BEQ 宮本さんが体験談として詳しく書いておられます。今回のQSLマネージャーはタイのE21EIC, Champです。

11月28日(金曜日)

この日は参加者の親善観光ツアーでした。8時30分に集合ということで、各自朝食を済ませて集ったロビーはアイボールQSO会場として賑わいました。9時に到着したジョホール観光局差し向けの4台のバスに分乗して北へ走ること約1時間半、Kota Timggiの滝を見物しながら思い思いの記念撮影で



す。現地の子供づれ家族が水遊びをしながら避暑を楽しんでいました。その後再びバスでFruit Farmに出かけました。ここは果実だけでなくその花を利用した養蜂場で、ロイヤルゼリーやプロポリスの効用を聞いた後、昼食とフルーツをご馳走になりました。JA3UB 三好さん達はお土産にとそこで出来た商品を買っていました。

次はDesaru Golden Beachです。南シナ海に面した海岸で、ゴルフ場を備えた一大リゾート地です。生憎の雨のためゴルフ場のクラブハウスでビールやコーヒーで時を過ごすことになりました。例年だとコンベンション会場に戻って歓迎の夕食会ですが、今回はこのリゾート地にあるオープンエアのレストランでの夕食会です。JH3GAH 後藤さんご家族のように、この日から参加するため会場に到着した人達は、この夕食会に参加出来ないあと気の毒に思いながら、ジョホール州の観光局とリゾートホテル提供の夕食をご馳走になりました。

夕食後皆を乗せた4台のバスは真っ暗な舗装のない地道にそれて数km進みました。蛍を見ようとライフジャケットをつけて数台の小型ボートに乗り込み、暗闇を進むと兩岸の木立にクリスマスツリーの



ような蛍の光を見る事ができました。マレーシアでも河川の汚染で限られた場所ではか蛍を見ることが出来なくなったそうです。楽しい長い1日の観光が終わわり、ホテルに戻ったのは夜の11時近くでしたが、元気な人達は最上階の無線局へ直行でした。

11月29日(土曜日)

この日の市内観光の出発は、前日が遅くなったからと30分予定を遅らせ、9時30分にバスがホテルに迎えに来ました。お蔭で8時(日本時間9時)から大阪国際交流センターのロールコールにJA3UB, JE3BEQ, JH3GAH, JR3MVF 達と共に9M0SEAからチェックインする事が出来、JA3BOA, JA3CZY, JA3AA, JA3GMIと交信しました。他にJP3AZA, JA3AOPもロールコールに参加しておられたようですが、残念ながらジョホールバールにはその信号が

聞こえませんでした。市内観光は週末でもあり、ラマダン明けのハリラヤ休暇とも重なって官公庁の建物は閉まっていますが、バスガイドの説明で市内を巡り、州政府の庁舎前で全員の記念撮影をしました。そして博物館を兼ねた歴史のある

グランドパレスを見学、一室に展示された日本との親交を示す多くの展示物から、古くから日本との交流があったことを偲ぶことができました。工場見学を予定していたWheels Electronic社には時間が遅れて昼食時にかかってしまったため、ロビーに展示



された製品を見せてもらうにとどめ、同社が提供してくれる昼食会に向かいました。この工場では自動車に使う電気部品を製造しており、日本の自動車メーカーにも納入しているようです。昼食後は近くのショッピングセンターで、安く売られているDVDのコピー品やPC用ソフトコピー品、それにハンドバックなどのブランド模造品をウインドウショッピングしてホテルに戻り夜の晩餐会(Gala Dinner)に備えました。

晩餐会はコンベンションのメインイベントです。地元ジョホール州観光大臣のDato Chua Soi Lekを主賓に迎え、7時半からスタートしました。主催者を代表して9M2KN, Dr. Kenの歓迎挨拶の後、9M6GY, Godfreyが制作した、昨年のパースでのコンベンションの様子がビデオで上映されました。続く主賓の挨拶では「自分はハムではないが、ウェブサイトでハムのことを知った。今回のように多くの国から同じ趣味を持つ人々が集り、仲良く国際的な交流をしている風景は他に例を見ない」と賛辞を述べられました。そしてディナーの開始と共に観光局提供の歓迎の民族舞踊が賑やかに舞台上で繰り広げられました。驚かされたのはディスコのリズムのような激しい音楽に乗って現れた若い女性ダンサー達(三好さ

んのお話では女装の男性とか)です。回教国では考えられなかった肌をあらわに見せた衣装をまっています。でも地元の若い人達の間では人気がありポピュラーだと聞かされて、マレーシアの認識を新たにしました。JH3GAH 後藤さんはステージに連れ出され、彼女達と一緒にダンスをするなど大活躍でした。

恒例の各国からの出し物では、昨年に引き続きJA9AG 吉井さんの詩吟で、SWL 八十島さんの剣舞披露が日本を代表しました。そして、お楽しみ抽選会で盛り上がり、忘れかけられた SEANET コンテストの表彰式が最後に行われました。JA3AOP 杉山さんは7MHzで、筆者は21MHzで参加して入賞を狙っていたのですが、残念ながらその上を行く人があったようです。全てのプログラムが終了したときは既に深夜でした。

11月30日(日曜日)

この日の講演会は9時半から始まり、IARU 第三地域の役員である HL1IFM, Park が WARC2003 での決定事項について報告がありました。7MHz バンドの

拡張、資格試験でのモールス試験の廃止(各国の判断に委ねる)、コールサインのサフィックスの桁数などについての説明でした。特に開発途上国ではアマチュアバンドを商用や軍事を含む公用にと狙っている、アマチュアバンドをよりアクティブにするべきだとの声もフロアから聞かれました。続いて9M2PV, Andy が燃料電池の現状を説明し、そのスタッフが水素ポンペを含む装置を会場に持ち込んで実演をして見せてくれました。アマチュア無線の非常用にどうかということらしいです。

そして Plenary Session では参加者から今回の開催についてのお礼などが述べられ、9M2KN, Dr. Ken から、次回の開催国タイの H50ZDZ, Roy に SEANET のペナントが引き継がれました。そして日本でも一度開催してほしいとの声に押され、来年(2005年)の開催候補インドに対抗して JA3UB 三好さんから預かったパンフレットを片手に日本として立候補しましたが、投票の結果は僅少差でインドのバンガロール市に決まりました。しかし、日本での開催を望む声も少なからずあり、いずれ日本での開催も

考えておかねばなりません。彼らは次回(タイでの SEANET 2004)に写真を含めてスライドでプレゼンテーションをして、日本を宣伝してほしいと話していました。その折には皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

これで SEANET 2003 は幕となり、Farewell Lunch はホテル内のタイレストランで思い思いの食事をもって、再会を約しながらの流解散となりました。

SEANET 2004 様子は下記の URL でどうぞ。

<http://www.seanet2003.com>

前述の通り SEANET 2004 はタイのバンコク市で 2004 年 11 月 12 日から 3 日間の予定で開かれますので、皆さん今からカレンダーにマークを入れておいてください。

以上、時系列での状況記述にとどめましたが写真と共にご覧頂き、その行間から国籍人種の差別なく草の根での国際親善 / 国際交流が果たされていることをお汲み取り頂ければ幸いです。



大阪国際交流センターラジオクラブ

J13ZAG

Web: <http://ja3.net/ihouse>

Newsletter

http://www.ja3.net/ji3zag_nl

会報を自由にダウンロードすることができます

ロールコール

毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

月例会

大阪国際交流センター
毎月第2金曜日